

資料1-5
2020.03.17

空の移動革命に向けた官民協議会資料
ANAホールディングス



エアタクシーサービスに向けた短期目標

2025年大阪万博にて、空飛ぶクルマによる旅客輸送サービスの提供を目指す。
万博にて社会受容性を高めつつ、その後、需要の見込まれるエリアでの拡大を検討する。

2025年大阪万博における概要

想定顧客：エグゼクティブ/富裕層、緊急輸送

価格帯：ヘリチャーター～ハイヤー/タクシー

サービス：**特定のルート**を**特定の時刻**に運航する
定期便型サービス。

航路：交通拠点(空港や駅)のポートから万博会場。
(関空/神戸空港/大阪中心部～夢洲)

想定機体：eVTOL

サイズ：4席以上の座席数を想定

操縦方法：自律飛行。パイロット同乗の可能性あり。

交通管理：95%以上の就航率実現と低高度を飛行する
機体との衝突防止が可能な方法を検討



ビジネスモデルを踏まえた課題について

航空交通システムとしての安全性や、天候に左右されにくい運航率や定時性、利便性の高い場所での離着陸、トータルの移動時間の最小化、競争力のある価格といった要件を踏まえ、以下課題の検討が必要であると考えます。

機体

- ① **機体の認証 (安全性)**
→ 機体の安全基準の策定
- ② **整備要件の設定 (安全性)**
→ 機体の整備要件の策定
- ③ **海外機体メーカーへの誘因**
→ 海外メーカーを日本に誘致するインセンティブや枠組み。

パイロット

- ① **パイロット免許 (安全性)**
→ eVTOLのパイロットの技能証明
- ② **訓練 (安全性)**
→ eVTOLパイロットの訓練基準の設定

航空交通管理

- ① **有人操縦時の管制 (運航率/定時性)**
→ 飛行方式にもよるが、管制方法について検討
- ② **計器気象状態での飛行拡大 (運航率/定時性)**
→ IFRか無操縦者飛行を見据えた新方式か運航率向上にむけた方法の確立
- ③ **空港施設内ポートへの離着陸 (利便性/定時性)**
→ 利便性の高い場所へのポート設置と羽田・成田空港での離着陸の実施

離着陸場

- ① **新設ポートの設置基準 (利便性)**
→ 利便性の高い場所への設置基準や空飛ぶクルマに合わせた設置基準、手続きの見直し。空港内ポートへの離着陸場設置および離着陸許可。
- ② **既存ヘリポートの利活用 (利便性/価格)**
→ 既存ビル屋上のヘリポート利用促進にむけた基準の見直し
- ③ **自動離着陸に向けた施設 (安全性/運航率)**
→ 気象観測設備や精密着陸援助施設などの自動離着陸にむけた設備の検討

無操縦者飛行

- ① **無操縦者飛行の形態に応じた安全基準 (安全性/価格)**
 - i) 遠隔操縦 (RPAS) の基準
 - ii) 完全自律飛行の基準
 - ii) 交通管理体制の整備
 - iv) 機上機器と地上施設の安全要件